

特集「移行期医療支援」

巻頭言

京都府立医科大学大学院医学研究科
小児科学

家原知子



本誌 133 巻 8 号では「移行期医療支援」をテーマに、循環器内科学の中西直彦先生，心臓血管外科学の小田晋一郎先生，小児科学の大曾根眞也先生，内分泌・代謝内科学の中島華子先生にそれぞれの専門家，小児領域，成人領域の立場でご執筆頂きました。移行期医療とは聞きなれない方がおられるかもしれませんが，小児期に罹患した慢性疾患の患者さんが，成人期を迎えてそれぞれのライフイベントや慢性疾患の病態の変化，合併症や加齢による付加的疾患，経済的サポートの変化が生じる頃に成人診療科中心の診療に移っていくことです。しかし，幼少期から慢性疾患を抱えていることにより，病識が乏しく，保護者頼りになることが多く，親元を離れた際などに成人診療科へ上手く移行できず，通院加療がおろそかになってしまうケースがあります。通院加療が途絶えた場合に，病状が悪化して救急外来を受診し，命に係わる場合もあります。慢性疾患を抱えた患者の医療中断を防ぐことが必要です。そのために，若年成人の移行期医療を支援する取り組みが必要です。厚生労働省はガイドラインを策定し，各都道府県に移行期医療支援センターを設置し，各都道

府県の移行期医療支援の推進を図ろうとしています。小児科学会をはじめとする各小児系学会も移行期医療支援のガイドラインを作成し，課題解決を図ろうとしています。そういった中で，本学附属病院には 2023 年度に移行期医療支援センターが開設されました。移行期医療支援センターでは①移行期医療を必要とする患者への医療の提供に関すること。②小児期診療科と成人期診療科，その他の医療機関との連携体制の構築に関すること。③成人期医療への移行に向けた患者・家族の自律（自立）支援に関すること。④小児慢性特定疾患に関する教育及び臨床研究の支援に関すること。⑤センターの活動の国内外に対する情報発信に関すること。⑥京都府との連携による移行期医療の普及及び推進に関すること。⑦その他，移行期医療に関すること。の役割を担っています。未来の社会を担う若年成人が健康で過ごすことができるように，成人診療科へ上手くバトンが渡せるようにできればと願っております。

本特集号では，これを機にそれぞれの疾患毎の移行期医療支援の課題と今後への展望を含めて皆様の考える機会になれば幸甚です。